

山の上にあるマイノリティに対応したトイレの設計

高知工科大学システム工学群
 建築・都市デザイン専攻
 1190134 原田裕里
 指導教員 重山陽一郎

背景と目的

2015年4月に「渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例」が施行され、LGBTに代表される性的マイノリティが広く認知されるようになった。身体と心の性が一致しない人にとってトイレは使いづらい場所である。トイレは男女の区別のあるものが多数であるが、少数派を軽視することはできないと考え、公共トイレの「男女共用化」という視点を検討しながらトイレを設計する。

性的マイノリティのトイレの利用に関するアンケート調査（図1）によると、トランスジェンダーは、「トイレに入る際の周囲の視線」、「トイレに入る際の周囲からの注意や指摘」、「男女別のトイレしかなく選択に困ること」、にストレスを感じることが多いことが分かる。また、洗面台での周囲の視線や男女別のトイレマークが色別に分けられていることも違和感を感じる人が多いことが分かる。周囲の視線が大きなストレスの原因である。

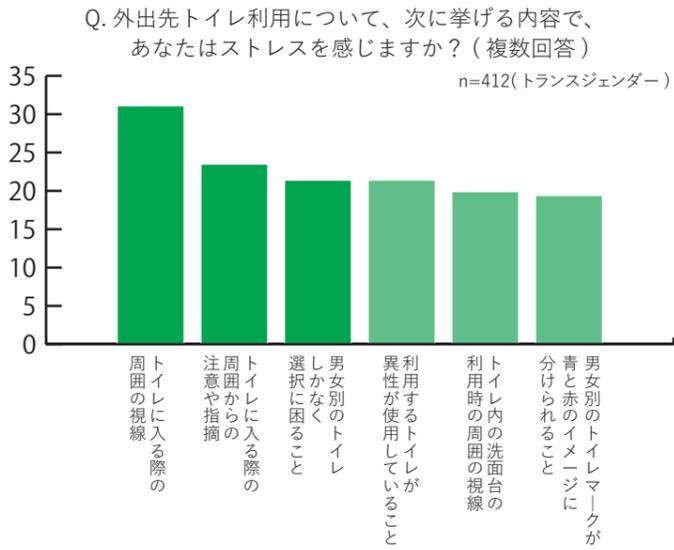


図1：「性的マイノリティのトイレの利用に関するアンケート調査」TOTO調べ・LGBT総合研究所（2018）

性的マイノリティのトイレの利用に関するアンケート調査（図2）によると、多機能トイレを利用する理由は、トランスジェンダー、シスジェンダーとともに、「男女別のトイレが混んでいて利用できなかったから」が最多で、「急を要する利用で、他のトイレを待つことが難しかったから」も、ともに多い。一方で、トランスジェンダーは、「自身の性や性のあり方を人に知られず利用したかったから」が2番目に多く、シスジェンダーとの差が顕著に表れた。混んできたり、急を要することであれば男女共用であっても意識しないと考えられる。

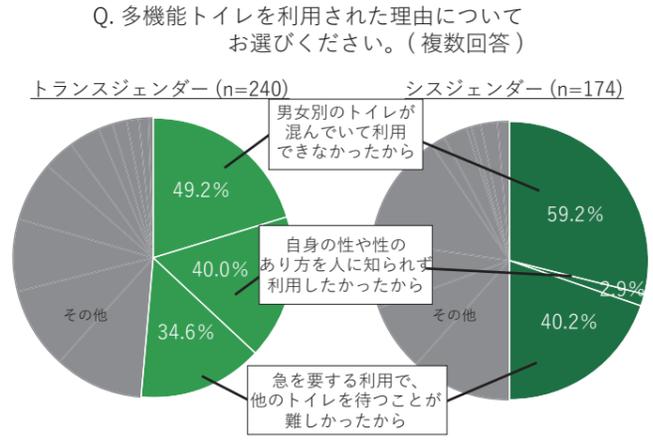


図2：「性的マイノリティのトイレの利用に関するアンケート調査」TOTO調べ・LGBT総合研究所（2018）

敷地

敷地は、広島県尾道市向島町にある瀬戸内海国立公園高見山の山頂下の駐車場。季節ごとに桜や紅葉、朝日や夕日、夜景も楽しむことができる。また、パトウォッチングもできる、しまなみ海道屈指のビュースポットである。

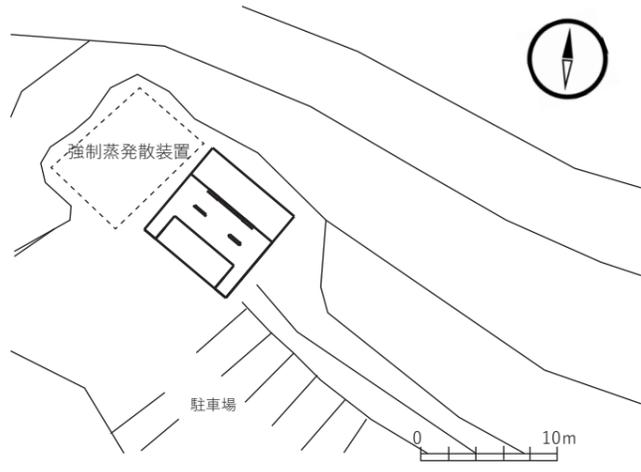


図3：整備後の配置図兼敷地図

現状

現在のトイレは、設置から46年が経過し老朽化が進み、設備が古く機能性や快適さが十分に満たされていない。



図4：現状写真

コンセプト

高見山の上だからこそ
 味わい、感じることができる
 「自然」の存在と「カイホウ感」の空間

高見山を訪れるヒトたちにとって、
 マイノリティに対応する心地よい場の在り方。
 周囲にとらわれることのないトイレを。



図5：南側からの全体図

方針

1, だれでも

従来の男性用トイレ・女性用トイレという区別をなくすことで全てのトイレを性別などに関係なく、「みんな」が心理的に心地よく利用できるトイレを目指した。トイレは外出先でストレスを感じる要因の一つである。特に性的マイノリティの方にとってはストレスを感じることも多い。コンビニエンスストアや飛行機、カフェなどでは男女共用トイレが多く見られることから、比較的小規模な場所では、男女の区別がなくても受け入れられていると考えられる。また、トイレサインのマークは便器のマークを取り入れることで、男女の分化を感じさせない。

2, カイホウ感

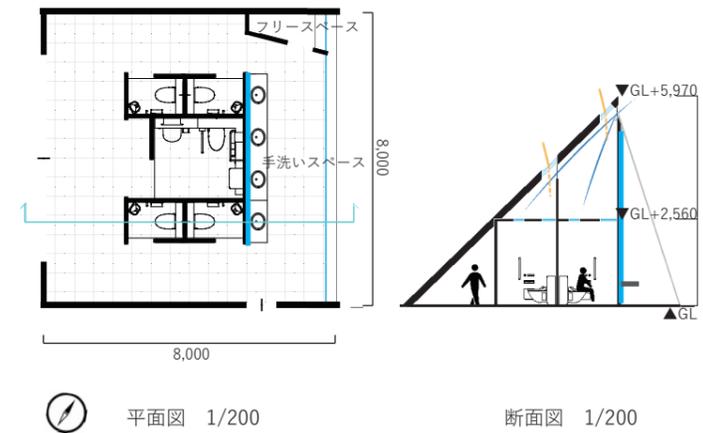
敷地が山の上であることから、解放と開放を味わうことができる空間を目指した。自然を感じることで、男女の境目のないトイレをつくることで、日常生活で感じるストレスなどから解放されるような場とした。トイレで感じる閉塞感を減らすことで、利用のしやすさにつながると考えられるため、開放感をもたせることを目指した。トイレのすべてのスペースにカイホウ感を持たせるのではなく、トイレブースと手洗いスペースに分けて明るさを変化させることで、開かれた、カイホウ的なトイレだと感じさせるようにした。また、色彩によって視覚的な効果も得られるようにする。

清掃・素材

床面をいつも乾燥した状態で保つことができるため、雑菌の繁殖を防止し、衛生的な乾式清掃を採用する。床は磁器質タイル、内部壁面はメラミン不燃化粧板、外部はコンクリート打放+ウレタン塗装、構造は鉄筋コンクリート。

換気

第三種換気を採用し、トイレ内で発生する臭気をトイレ外に出し、トイレブース外にあまり流れないようにする。換気回数10~15回/時間とする。（参照：株式会社アメニティのホームページ）



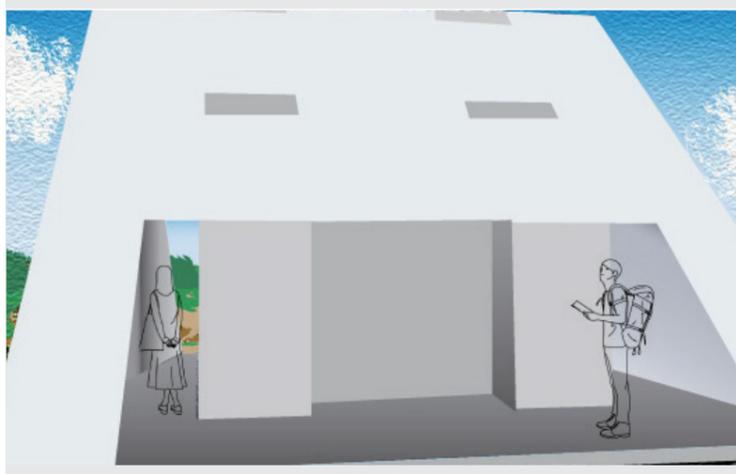


図6：出入口

1. 出入口

出入口はアクセスのしやすさを考え、開口部を広くした。入る際に北側（奥側）の景色を少し見せることで、トイレで感じる暗さをなくし、入りやすさを持たせた。中央部に多機能トイレ、左右にだれでも利用できる、若干広めの男女共用トイレを配置している。

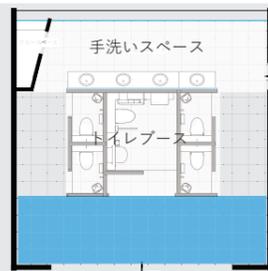


図9

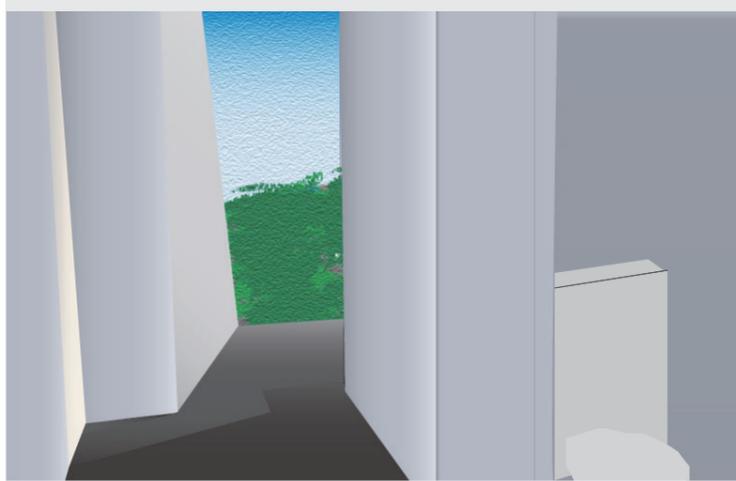


図7：トイレブース外

2. トイレブースから
手洗いスペースへ

トイレブースは若干広めになっている。ブースごとにトップライトを設け、明るすぎず、暗すぎない居心地の良い空間となるようにした。排泄後、北側の景色が覗く方向に向かうと、手洗いスペースが右にある。

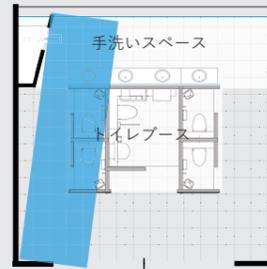


図10

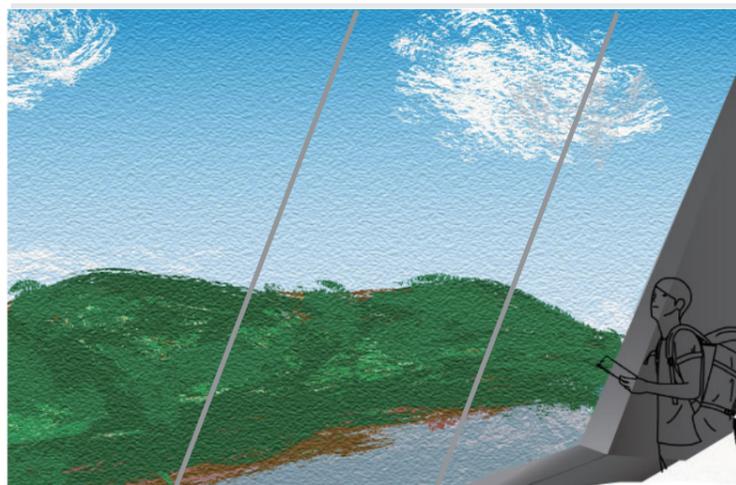


図8：手洗いスペースから見た景色

3. 手洗いスペース（西→東）

手洗いスペースに向かうと、目の前一面に向島の景色が広がる。手を洗う際には、背後に広がる風景が洗面台の鏡に反射し、景色に視線を集めることにより、周囲からの視線を感じさせないようにした。



図11

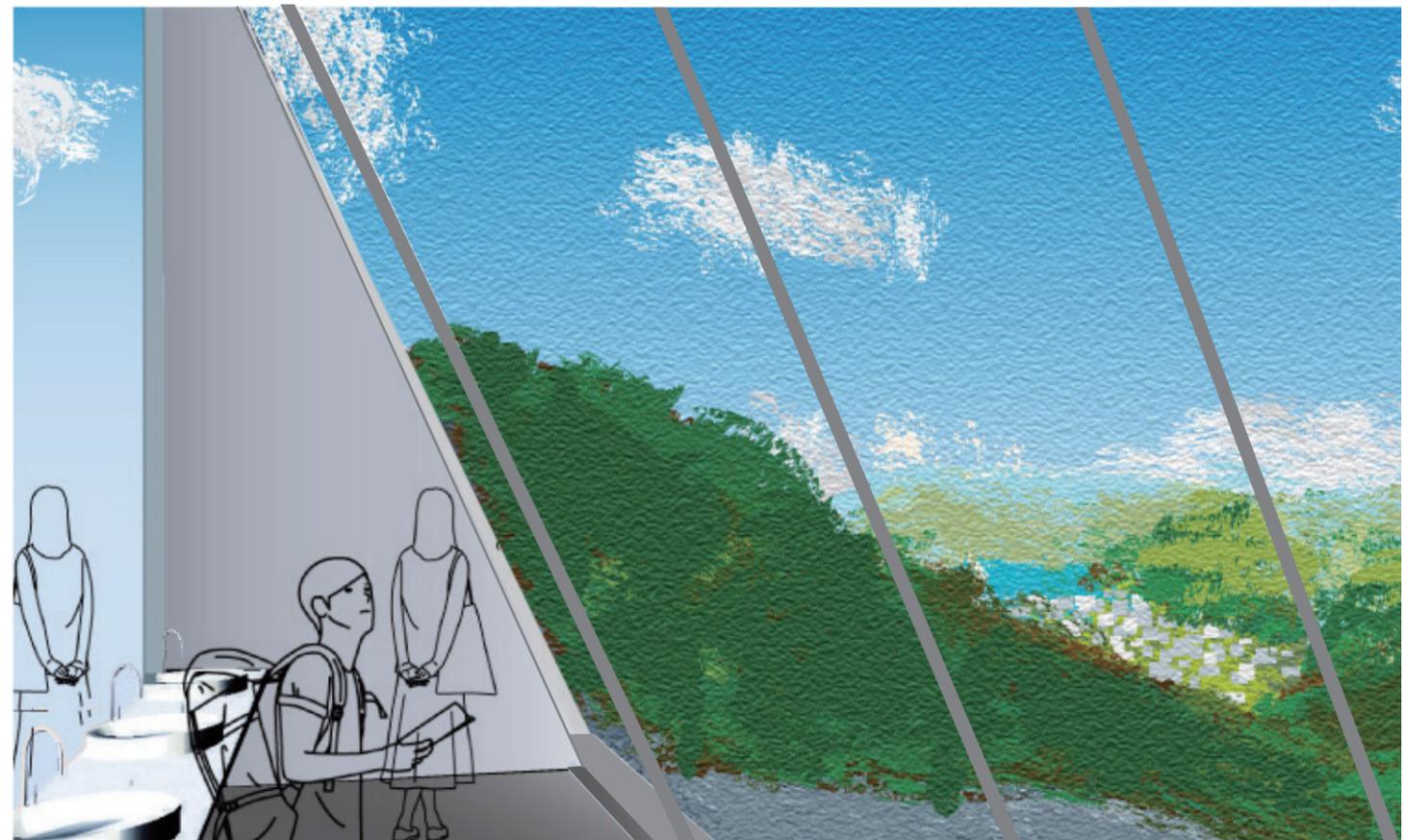


図12：手洗いスペース

4. 手洗いスペース（東→西）

開口部を広く設け、その部分一面に高機能フッ素樹脂ETFE膜を用いた。極めて高い透明性と高い耐久性、防汚性があるため、明るい内部空間をつくり、管理もしやすいと考えられる。トイレ内にいながらも高見山付近からの景色を見渡すことができる。空間を広く見せるため内から外へと繋がっているかのように感じるようにETFE膜の下端を床の高さに合わせ内外の一体感を持たせた。



図13：北側からの全体図

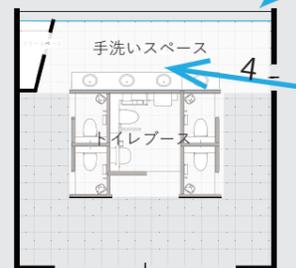


図14

5. 北側から全体図

共用である手洗いスペースに、主に、カイホウ感を持たせることとした。また、手洗いスペースを一面鏡張りにしたため、外部から見た際、周囲の風景が反射しているため周囲との調和が図れると考えられる。できる限りシンプルな設計にすることで、「だれでも」が利用できる普遍的なものになると思える。